
建築都市デザイン学部 建築学科

学 部 基 盤 科 目

専 門 科 目

建築学科

人材の養成及び 教育研究上の目的

科学技術が高度に発展した現代において、歴史・文化を踏まえた上で都市・地域を再生し、人間生活や社会機能の高度化・複雑化に対応でき、自然環境と調和できる建築・都市を実現するために、人間としての幅広い教養、建築学に係わる総合的な基礎能力及び応用能力を培い、広く社会の発展に貢献できる建築設計者・建築技術者の養成を目的とする。

主任教授 小林 茂雄

1. 建築学科の特性

・建築は多様な分野とつながる

建築は単なる建物の設計にとどまらず、家具や生活機器、住宅、学校、オフィス、工場、公園、庭園、街並み、景観、さらには都市・地域の計画まで多岐にわたる。建築を学ぶということは、自然科学や工学のみならず、美術、歴史、地理、気象、政治、経済といった幅広い学問を修得することである。また、安全性や健康性、快適性、利便性を追求するためには、法律、社会学、哲学、医学、衛生学、生物学、心理学などの知見も不可欠である。建築とは、これら多様な学問を結びつけ、統合する分野であり、総合的な視点が求められる学問である。

・建築は未来をつくる

近年、人工知能（AI）を活用した建築・都市設計の手法が提案されている。AI技術は、過去の膨大なデータを基に判断を行うが、リアルタイムで進行する社会問題や環境問題を踏まえ、新たな建築の在り方を創造することは、人間にしかできない重要な役割である。また、建築学は経験の蓄積が重要な学問であり、長い歴史を持つ。近代以降、社会の仕組みは整備されてきたが、今日ではその行き詰まりも指摘され、新しい産業、働き方、暮らし方、生き方が模索されている。地球環境問題に対して建築の観点から責任を果たし、持続可能な未来を築いていくことが求められる。

・「よい建築」とは何かを考える

「よい建築とは何か？」この問いに明確な答えを出すことは容易ではない。なぜなら、建築の評価は人によって異なり、状況や用途、目的によっても変化するからである。最大公約数的な建築が良い建築であるのか、それとも唯一無二の建築こそが理想なのか、様々な議論が存在する。しかし、現実には、その場所にはただ一つの建築しか建てることができない。このような建築の奥深い世界を旅するように楽しみながら学んでほしい。

2. 本学建築学科の歴史と特徴

本学建築学科は、1929年の武蔵工業大学創立以来の長い歴史を持つ、日本でも有数の伝統ある学科である。これまでに多くの優秀な建築家や技術者を輩出し、現在も社会の中枢で活躍している。特に、建築設計の分野では数多くの卒業生が新たな建築空間を創造し、建築文化の発展に寄与してきた。

創設時、まだ近代化の途上にあつた日本において、本学の蔵田周忠教授は「新しい建築とは何か？」という課題に挑み、近代建築の発祥地であるドイツのパウハウスで学び、その教育思想を本学に取り入れた。さらに、三木韶教授は、建築音響学の専門家としてだけでなく、建築計画、照明、製図など幅広い分野の教育に携わった。このように、本学科は建築工学分野の教育研究にも特徴があり、これまで多彩な人材を輩出してきた。

その後、広瀬鎌二教授などの実践的な教育が加わり、時代の変化に即した新しい教育環境が形成されてきた。本学科は常に時代の最先端を取り入れながら、独自の教育方針を築いている。

3. 建築学科における学修目標

本学科は、人材養成および教育研究上の目的に基づき、学修目標を定めている。具体的には、カリキュラムポリシーを策定し、それに基づいて教育課程を編成している。

本学科では、工学的要素と芸術的要素の双方から総合的に「建築学」を捉え、建築に関する基礎知識の習得と、各分野における高度な専門知識および技術の修得を目的としたカリキュラムを構成している。幅広い建築学を四つの領域に分け、系統的かつ効率的に学習できるよう設計し、総合的・包括的に建築を学ぶことが可能である。

カリキュラムは、1年次に工学全般の基礎学力を養い、2年次には建築学の基礎的な専門科目を学ぶ。3年次後期以降は、各自の進路や適性に応じて専門性を深める構成となっている。必修科目には、建築学を学ぶ上で最低限必要な内容を盛り込んでいるが、意匠設計に関心がある者であっても、建築構造力学、建築環境工学、建築材料学、建築構法などの工学分野の知識は不可欠である。これらの基礎知識は、一級建築士の資格取得においても必須となる。

各授業科目の「学習・教育目標」を記した表を十分に理解し、履修に取り組むことが求められる。

4. 建築学科棟（4号館）での学び

現在、本学科の学びの中心となる建築学科棟（4号館）は、本学出身の岩崎堅一名誉教授が設計し、2007年に竣工した。日本建築学会作品賞を受賞した優れた建築であり、新しい建築学科の教育環境として、以下の三つの理念に基づいて設計された。

- ・建築分野ごとの障壁をなくすこと
- ・可変性を持つこと
- ・教育環境を社会化すること

この建築自体が現代建築の教材であり、学びの宝庫である。1年生から大学院生までが自由に交流し、学び合い、体験できる魅力的な空間となっている。特に1階の「グランドギャラリー」には、大規模美術館さながらの可動パネルやAV設備が備えられ、学生が自由かつ活発にプレゼンテーションやコミュニケーションを行う場として機能している。これは、大学を知識の集積の場としてだけでなく、交流と体験の場として捉える考え方を具現化したものである。

また、2階と4階には、それぞれの建築分野の研究室が一つの大きな部屋に共存する形で配置されている。専門分野の縦割りを廃し、建築の総合性を活かした分野融合による研究の活性化を促す意図がある。このような学習環境の構想と建築空間の融合が評価され、日本建築学会作品賞の受賞につながった。この精神を引き継ぎ、新たな建築学科の学びを学生と共に築いていきたいと考えている。

5. 卒業後と大学院

(1) 卒業後の進路

本学科の卒業生の主な進路は、建築設計業務を担う建築設計事務所および施工管理・設計を行う建設会社である。建設会社には、総合建設会社、専門建設会社、工務店があり、設計事務所と建設会社に就職する学生は約70%にのぼる（大学院進学者を除く）。

その他の進路として、不動産会社（デベロッパー）、建築技術系公務員（国、都道府県、市町村）、鉄道会社、一般企業の建築セクション（電機メーカー、自動車メーカー、放送会社、高速道路会社、空港など）、不動産管理会社、住宅メーカー、リフォーム会社、インテリア設計・施工会社、研究職などがある。建築的な発想や知識、技術は、実社会の多様な分野で活かすことが可能である。

(2) 大学院

本学では、建築学に対するさらなる研鑽と高度な知識の修得を志す学生のために、大学院を設置し、充実を図っている。その結果、建築都市デザイン専攻の大学院生数は多くなっている。

また、学部4年間では必要な修得科目が多岐にわたり、修学期間が短いことを示している。さらに、高度な知識を持つ人材を求める社会の要請に応えるため、学部・大学院の一貫教育を強化している。現在、大学院は六つの領域で構成されており、修了者には修士（工学）、博士（工学）の学位が授与される。

6. 建築士について

本学科の卒業生は、一級建築士試験を卒業後すぐに受験することが可能である。一級建築士試験に合格し、所定の実務経験を積み、一級建築士免許の登録が可能となる。

また、二級建築士試験についても卒業後すぐに受験可能であり、合格すれば実務経験なしでも二級建築士免許の登録ができる。本学大学院建築都市デザイン専攻を修了し、所定の単位を取得した場合、1年または2年の「建築実務」に充当することができる。建築士試験の詳細については、別頁を参照し、十分に理解しておく必要がある。

7. おわりに

大学生活では、学修面だけでなく、多様な経験を積み、生涯の友人を作り、充実した時間を過ごしてほしい。学生時代の経験は、自己形成の上で重要な糧となり、一生の記憶となる。しかし、自由に行動する中でも、自らの責任を常に認識し、大人として行動することが求められる。

建築という分野は広範な知識を要するため、学ぶべきことが多く、時には自身の限界を感じることもあるだろう。しかし、視点を変えて建築の多様な道を見出してほしい。入学時の意気込みを忘れず、自己の適性を知り、進むべき方向を見極め、有意義な大学生活を送ってほしい。

技術革新や社会の変化により、今後も予測を超えた新技術や新たな事象が生まれることは確実である。重要なのは、常に学び続ける姿勢と行動であり、自立的学習者としての心構えと能力が求められる。本学は、学生が主体的に考え、活路を見出そうとする限り、全力でサポートする。4年間での大きな成長を期待している。

2025年度 建築学科 教育課程表

学則第18条別表1-2① 建築都市デザイン学部 建築学科 学部基盤科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分	科目群	授業科目	必修の別	単位数	週時間数								科目ナンバリング			
					1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期				
学部基盤科目	数学系	微分積分学(1a)	※MS	○	1	1*	(1)								AU-111	
		微分積分学(1b)	※MS	○	1	1*	(1)								AU-112	
		微分積分学(2a)	※MS		1		1	(1)							AU-211	
		微分積分学(2b)	※MS		1		1	(1)							AU-212	
		線形代数学(1a)	※MS	○	1	1	(1)								AU-113	
		線形代数学(1b)	※MS	○	1	1	(1)								AU-114	
		線形代数学(2a)	※MS		1		1	(1)							AU-213	
		線形代数学(2b)	※MS		1		1	(1)							AU-214	
		微分方程式論		△	2			2								AU-311
		ベクトル解析学		△	2			2								AU-312
		フーリエ解析学		△	2				2							AU-313
	数理統計学	※MS	△	2			2								AU-314	
	自然科学系	物理学及び演習(1)		○	3		4	(4)							AU-121	
		物理学及び演習(2)		○	3		4	(4)							AU-122	
		物理学(3)			2			2							AU-221	
		物理学(4)			2			2							AU-222	
		電磁気学基礎			2			2							AU-223	
		物理学実験(a)		○	1	2	(2)								AU-123	
		物理学実験(b)		○	1	2	(2)								AU-124	
		化学(1)			2	2									AU-125	
		化学(2)			2		2								AU-224	
		化学実験			2	(4)	4								AU-126	
	生物学			2			2							AU-127		
	地学			2			2							AU-128		
	情報系	情報リテラシー演習(a)		○	0.5	1									AU-131	
		情報リテラシー演習(b)		○	0.5	1									AU-132	
		プログラミング基礎(a)			1		1								AU-231	
		プログラミング基礎(b)			1		1								AU-232	
		情報処理入門			2	2									AU-133	
		数値解析			2				2						AU-331	
	総合系	技術者倫理		○	2					2					AU-233	
		未来を拓くイノベーション			2	2									AU-134	
		インターンシップ(1)			1										AU-931	
		インターンシップ(2)			1										AU-932	
		海外体験実習(1)			2										AU-933	
		海外体験実習(2)			2										AU-934	
		SD PBL(1)		○	1	2									AU-935	
SD PBL(2)		○	1			2							AU-936			
SD PBL(3)		○	1						2				AU-937			

*週時間数2とする場合がある

卒業要件	学部基盤科目	30単位	専門科目	66単位	数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位
	以下を含むこと		以下を含むこと		以下を含むこと	
	○ 必修科目	18単位	○ 必修科目	31単位	※DS	1単位
	△ 選択必修科目	2単位	△ 選択必修科目	※△1~4の合計で35単位		
			内訳	△1 選択必修科目 5単位		
				△2 選択必修科目 1単位		
				△3 選択必修科目 2単位		
				△4 選択必修科目 ※		

科目ナンバリング: YY-LMD

YY:科目区分	AU:学部基盤科目		
L:レベル	1:入門	3:応用	9:その他
	2:基礎		
M:科目群	1:数学系	3:情報系・総合系	
	2:自然科学系		
D:識別番号			

○印必修科目 △印選択必修科目

区分	科目群	授業科目	必修の別	単位数	週時間数								科目ナンバリング		
					1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期			
専門科目	専門教養	都市のインフラストラクチャー		2		2								AL-161	
	学部共通	都市計画		2			2							AR-226	
		建築と都市	△1	2				2						AR-329	
		都市デザイン	△4	2						2				AR-32A	
		ランドスケープデザイン	△4	1						1				AR-32B	
		空間情報科学		2			2							AR-262	
		都市交通計画		2					2					AR-263	
		都市・地域分析		2						2				AR-264	
	学科共通	建築CAD演習(1)	△4	1					2					AR-211	
		建築CAD演習(2)	△4	1					2					AR-212	
		建築製図演習	△4	2					4					AR-311	
		建築実験	△4	2					4					AR-313	
		特別講義(1)		2										AR-265	
		特別講義(2)		2										AR-266	
		特別講義(3)		2										AR-267	
	建築基礎	設計基礎(1)	○	1	2										AR-112
		設計基礎(2)	○	1		2									AR-113
		設計基礎(3)	○	1		2									AR-114
		設計(1)	○	1.5			3								AR-221
		設計(2)	○	1.5			3								AR-222
		設計(3)	○	1.5				3							AR-223
		設計(4)	○	1.5				3							AR-224
		建築計画(1)	○	2			2								AR-225
		建築材料(1)	○	2				2							AR-231
		建築構法(1)	○	2			2								AR-232
		建築構造力学基礎(1)	○	1	1										AR-141
		建築構造力学基礎(2)	○	1	1										AR-142
		建築構造力学基礎(3)	○	1		1									AR-241
		建築構造力学基礎(4)	○	1		1									AR-242
		建築環境工学(1)	○	2			2								AR-151
		建築設備学基礎(1)	○	1			1								AR-152
	建築設備学基礎(2)	○	1			1								AR-153	
	建築計画・設計	建築計画(2)	△1	2				2							AR-227
		西洋建築史	△1	2			2								AR-228
		日本建築史	△1	2				2							AR-229
		建築意匠論	△1	2							2				AR-321
		建築安全計画	△1	1							1				AR-334
		設計(5)	△4	2					4						AR-322
		設計(6)	△4	2					4						AR-323
		設計スタジオ(1)	△4	2						4					AR-324
設計スタジオ(2)		△4	2						4					AR-325	
設計スタジオ(3)		△4	2							4				AR-326	
設計スタジオ(4)		△4	2							4				AR-327	
空間デザイン演習	△4	1.5						2					AR-328		

科目ナンバリング: YY-LMD

YY:科目区分 AR:建築学科 専門科目 AL:専門教養科目
 L:レベル 1:入門 3:応用 9:その他
 2:基礎 4:卒業研究等
 M:科目群 1:建築総合 3:建築生産・材料 5:建築環境設備
 2:建築計画設計 4:建築構造 6:その他
 D:識別番号

○印必修科目 △印選択必修科目

区分	科目群	授業科目	必修の別	単位数	週時間数								科目ナンバリング	
					1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期		
専門科目	建築工学	建築生産	△3	2						2				AR-331
		建築施工法	△3	2							2			AR-332
		建築材料(2)	△4	2						2				AR-333
		建築構法(2)	△2	1				1						AR-233
		木質構造	△2	1				1						AR-234
		建築構造力学(1)	△4	1			1							AR-243
		建築構造力学(2)	△4	1			1							AR-244
		建築構造力学(3)	△4	1				1						AR-341
		建築構造力学(4)	△4	1				1						AR-342
		建築構造力学(5)	△4	1					1					AR-343
		建築構造力学(6)	△4	1						1				AR-344
		鉄筋コンクリート構造	△2	2				2						AR-245
		鉄骨構造	△2	2						2				AR-345
		建築構造計画	△2	2				2						AR-246
		地盤と基礎	△4	2						2				AR-346
		建築構造設計	△2	2							2			AR-348
		建築環境工学(2)	△4	2				2						AR-251
		建築環境工学(3)	△4	2						2				AR-351
		建築設備学	△4	2						2				AR-252
		建築設備学応用	△4	2							2			AR-352
		建築音響学	△4	1						1				AR-353
卒業研究 関連科目	事例研究	○	2					(2)	2			AR-317		
	卒業研究(1)	○	3						(6)	6		AR-411		
	卒業研究(2)	○	3							(6)	6	AR-412		

学則第18条別表 1-9 全学部共通 教育課程表

区分	科目群	授業科目	必修の別	単位数	週時間数								科目ナンバリング
					1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
学部基盤科目	ことづくり	ことづくり(1)		1		1							HP-101
		ことづくり(2)		1		1							HP-201
		ことづくり(3)		1			1						HP-202
		ことづくり(4)		1				1					HP-301
		ことづくり(5)		1						1			HP-302
専門科目	ひらめきことづくり	ひらめきづくり(1)		1	1								HP-901
		ひらめきづくり(2)		1		1							HP-902
		ひらめきづくり(3)		1			1						HP-903
		ひらめきづくり(4)		1				1					HP-904
		ひらめきづくり(5)		1					1				HP-905
		Next PBL(1)		1						1			HP-906
		Next PBL(2)		1								1	HP-907

科目ナンバリング: YY-LMD

YY:科目区分 HP:ひらめきプログラム 学部基盤科目・専門科目

L:レベル 1:入門 3:応用
2:基礎 9:その他

M:科目群 0:ことづくり・ひらめきことづくり

D:識別番号

履修上の注意事項

各年次における条件等

建築学科の専門科目等は、大別すると、前述の「建築基礎」「建築計画・設計」「建築工学」の3つの科目群より構成されている。それぞれ卒業のための条件が明記されているので見落としのないように注意が必要である。また、以下の点については特に十分留意して選択してほしい。

1. 履修登録単位数の制限

卒業までの各1学期あたりの履修登録可能な単位数は、24単位を上限とする。ただし、科目によりこの制限に含めない場合がある。詳細は「履修要綱」の「3. 履修心得-9. 履修登録単位数の制限」を参照すること。

2. 単位修得状況や成績に関する指導

1年次前期終了時に修得単位が10単位未満*の者に対しては、学修意欲の促進と成績向上を目的として、クラス担任が面談等の個別指導を行う。また、1年次終了時に修得単位が20単位未満*の者に対しては、クラス担任が面談等を行い、勉学意志の確認や進路変更を含めた今後の進め方に関する相談および指導を行う。なお、いずれの場合も途中で休学がある場合はその期間を考慮して対応する。

また、各年次終了時に、f-GPAが0.6未満の者には、退学勧告を行う。併せて、f-GPAが1.5未満である成績不振の者には個別面談などを実施する。

3. 3年次進級条件

2年次終了時に修得単位が60単位未満*の者は、3年次へ進級できず2年次に留年となる。

4. 4年次進級条件

4年次になると各研究室に所属し、「卒業研究(1)」に着手するが、下記の条件を満たしていなければ着手できない。110単位以上修得しておくことが望ましい。本人の適性を含め卒業後の進路に関わる重要な科目である。

総単位数		卒業研究(1)着手条件*
		100単位 (ただし、下記の各要件を含むこと)
共通分野	合計	11単位
	合計	70単位
専門分野	学部基盤科目	必修科目10単位
	専門科目	必修科目25単位

5. 卒業研究(1)着手条件

4年次進級条件を満たしていること。ただし、3年後期開始時点で学部・大学院教育一貫プログラムへの参加が認められ、卒業研究の早期着手を学科が認めた場合には、卒業研究(1)に着手できる。

6. 卒業研究(2)着手条件

卒業研究(1)の単位を修得済みであること。

7. 卒業要件

修業年限を充たし、下記の卒業要件を満たした者は卒業となる。

総単位数		卒業要件*	
		124単位 (ただし、下記の各要件を含むこと)	
共通分野	合計	19単位	
	教養科目	10単位	
	体育科目	1単位	以下を含むこと △選択必修科目 1単位
	外国語科目	8単位	以下を含むこと ○必修科目 4単位
専門分野	合計	96単位	
	学部基盤科目	30単位	以下を含むこと ○必修科目 18単位 △選択必修科目 2単位
	専門科目	66単位	以下を含むこと ○必修科目 31単位 △1選択必修科目 5単位 △2選択必修科目 1単位 △3選択必修科目 2単位 △4選択必修科目 ※ ※△1~4の合計で35単位

*卒業要件非加算の単位数は含まない。

上記のうち数理・データサイエンスプログラムで指定された科目(※DS及び※MS)を合計4単位以上修得し、かつ※DSを1単位以上修得すること。

履修上の注意事項

1. 1～2年の学修に関して

- (1) 必修科目は配当年次に修得すること。1年生は、学部基盤科目を幅広く修得することを心がける。また、1年次で履修すべき「専門科目」は1年次で確実に単位を修得すること。1年終了時点で最低30単位以上修得しておくことを推奨する。
- (2) 2年生は建築全般を幅広く学修することを心がける。特に建築学科共通の「専門科目」は建築専門のコア科目として位置づけられているので、確実に単位を修得するようにすること。
- (3) 3年次への進級に際し、最低60単位を修得することが義務付けられている。2年次終了時点での修得単位数がこれに満たない場合は、3年次に進級できない。
- (4) 各年度に準備された必修科目はその年度において修得することが望ましい。特に必修科目の単位を未修得の場合、以後の学修計画に差し支えるので十分に注意すること。

2. 3年の学修に関して

3年前期終了後に、「卒業研究(1)」「卒業研究(2)」を行う研究室への一次配属が行われる。研究室への一次配属は本人の希望を優先するが、希望する人数が研究室の定員を超えた場合は、3年前期終了時点での成績および学科の指定する基準を加味した順位が上位の者から一次配属研究室を決定する。一次配属方法の詳細は2年後期から3年前期の適切な時機に掲示等で連絡する。

3年後期に開講される「事例研究」を必ず履修すること。この科目では、3年後期に一次配属された研究室で「卒業研究(1)」「卒業研究(2)」を行うために必要な事柄を少人数で学習する。授業の形態は各指導教員により様々であり、卒業研究に必須の基礎知識を習得することが目的である。研究室一次配属の手続きを怠った者は、「事例研究」を履修できないので留意すること。なお、3年前期終了時点の修得単位数が少なく、3年後期終了時まで卒業研究着手要件を満たすことが明らかに困難な者に対しては、一次配属を行わない場合があるので注意すること。

本学の大学院への進学を早い段階で希望する場合には、大学院での科目の一部を学部の段階で「先行履修」することもできる。詳細は別頁に掲げているのでよく理解してほしい。

3. 4年の学修に関して

卒業研究(1)、(2)着手条件は、「各年次における条件等：4、5、6」を参照すること。

4年次への進級条件が満たされたものは、一次配属された研究室への正式配属が決定し、卒業研究を開始する。

「卒業研究(1)」「卒業研究(2)」には、卒業設計と卒業論文の2つがあり、どちらか一つを選択するか、または、両方を行うことも可能である。卒業設計のみを行う者は、原則として「SDPBL(1)」、「設計基礎(1)～(3)」、「設計(1)～(6)」、「設計スタジオ(1)～(4)」を履修することが必要である。

詳細については、4年次の適切な時機に掲示などで連絡する。

4. 他学科・他学部・他大学の科目の履修について

他学科・他学部・他大学の科目を履修したい場合は、「履修要綱」を参照し、建築学科における履修科目とのバランスを考えながら、効果的に履修すること。

5. 職業分野と学習の関連性

- (1) 就職先の分野は大別すると意匠、構造、施工、設備、その他に分けられる。
- (2) 意匠、構造、施工、設備のいずれの分野を志望する者も、その専門分野に関係する科目を出来るだけ受講しておくこと。
- (3) 求人企業に対する推薦は3年次前期までの成績順位を考慮して行う。
- (4) 何れの分野においても最近では国際的な仕事や交流が増えていることから、外国語の修得に心掛けることが望ましい。

6. 大学院志望者へ

現在、産業界全般において博士前期課程修了者（修士の学位取得者）を歓迎する傾向がある。近い将来、企業の中堅以上の技術者は大学院修了者（修士または博士の学位取得者）の時代になると予想されるので、勉学に精励し意欲をもって進学を志望されたい。

- (1) 本学建築学科の大学院建築都市デザイン専攻は博士前期課程2年及び博士後期課程3年からなり、2025年4月現在の領域に分かれている。

博士前期課程：建築計画・建築史、建築設計、
建築構造、建築生産・材料、建築環境設備

博士後期課程：建築計画・建築史、建築設計、
建築構造、建築生産・材料、建築環境設備

- (2) 建築の専門領域の広がり、世界的な建築教育の動向などを踏まえて、大学院への進学を強く推奨する。
留学、インターンシップ単位なども踏まえて、3年次から4年間の自らの学習プログラムを担当教員と相談しながらつくるのが望ましい。その際には、大学院単位の先行履修制度、海外大学との単位互換制度なども活用することができる。

- (3) 交換留学制度について

博士前期課程の建築設計デザイン分野における交換留学制度として、希望者は選考の上、在籍期間中に海外協定校に留学することが出来る。

■協定校および課程名

- ・AHO The Oslo School of Architecture and Design, Master of Architecture (Norway)
- ・KTH Royal Institute of Technology, School of Architecture and the Built Environment (Sweden)

■実施期間

博士前期課程1年次後期開始から2年次前期終了までの内、1期か2期を実施期間とする。修了後の希望進路に応じて実施期間の調整が可能である。

■単位認定

「東京都市大学認定留学に関する規程」に基づき、留学先の実績を本学での単位として認定を得ることが出来る。

■募集人数

協定校ごとに学期あたり2～3名を募集する。卒業設計、設計科目の履修状況、成績、語学力、志望動機によって選抜する。

学習・教育目標と授業科目

「建築学科における学習・教育目標」と各授業科目の内容がどのように関連するのかが示したのが以下の表である。関連の程度は、◎が関連の程度が強いことを示し、○は関連の程度は比較的強いことを示している。空欄は関連の程度が比較的弱いことを示している。

1)	社会の発展に貢献できる能力の修得	国際化、少子高齢化、高度情報化、地球環境問題の顕在化、地域社会の希薄化など絶え間なく変化する社会から求められるものを常に自らに問い、建築分野における幅広い活動を通じて社会の持続的発展に貢献できる能力を修得する。
2)	総合的な建築学の基礎能力の修得	建築計画設計、建築生産・材料、建築構造、建築環境設備等の各専門分野にわたる建築学の基礎を、建築設計を中心において総合的に学修し、将来のより専門性の高い分野にも対応できる基礎能力を修得する。
3)	建築学の工学的な基礎知識の修得	建築学の工学的な基礎となる自然科学、情報技術に関する基本的知識を修得する。
4)	建築学の専門的能力の修得	①建築設計、建築・都市計画、建築意匠・歴史に関する専門的能力を修得する。 ②建築材料、建築構法、建築生産、建築施工に関する専門的能力を修得する。 ③建築構造、構造力学、構造設計、耐震工学に関する専門的能力を修得する。 ④建築環境、建築設備、都市環境に関する専門的能力を修得する。 ⑤高度情報化社会に対応できるようにコンピューターショナルデザインの知識と技術を修得する。
5)	総合的な設計能力の修得	地球環境、少子高齢社会、高度情報社会、建築・都市防災など社会的な観点から建築、都市が抱えている現代的な課題を把握し、それに対して建築学の専門知識を総合し、与えられた制約条件の下で計画的に創造性豊かな解決策をまとめ、提案、表現する能力を修得する。
6)	建築家・建築技術者としての倫理観の修得	建築・都市の文化や法律を理解して建築設計等を適切に行うとともに、設計や技術が、人間、社会及び自然環境に与える影響を十分認識し、かつ問題に責任を持って誠実に対応できる専門家としての倫理観を修得する。
7)	コミュニケーション能力の修得	第三者に伝達したい内容を論理的に記述し、口頭で発表し、討論することのできるコミュニケーション能力、基礎的な国際的コミュニケーション能力を育成する。また、異なる知識・考えをもつ人間と共同して、プロジェクトに関する問題解決を行う能力を修得する。
8)	継続的な専門能力の向上と資格取得のための基礎学習能力の修得	本学科卒業後、生涯にわたり新しい建築学の知識を修得し、継続的な自己啓発ができる能力と建築士や技術士等の資格取得のための基礎学習能力を修得する。

学習・教育目標と授業科目の関与一覧表

区分	系統・科目群等	学習・教育到達目標											
		1)	2)	3)	4)-①	4)-②	4)-③	4)-④	4)-⑤	5)	6)	7)	8)
		社会	建築学基礎	工学的な基礎	建築学専門					設計	倫理観	コミュニケーション	専門能力
設計計画	生産材料				建築構造	環境設備	コンピューターショナルデザイン						
教養科目	人文学系	○											○
	社会科学系	○											○
	人間科学系	○											○
	自然・情報科学系	○		○									○
	その他	○											○
体育科目	基礎体育(1a)	○											
	基礎体育(1b)	○											
	基礎体育(2a)	○											
	基礎体育(2b)	○											
	応用体育(1)	○											
	応用体育(2)	○											
外国語科目	英語科目(スキル)												◎
	英語科目(教養)												◎
	共通												◎
	英語以外												◎

区分	科目群	授業科目	学習・教育到達目標											
			1)	2)	3)	4)-①	4)-②	4)-③	4)-④	4)-⑤	5)	6)	7)	8)
			社会	建築学基礎	工学的な基礎	建築学専門					設計	倫理観	コミュニケーション	専門能力
設計計画	生産材料	建築構造				環境設備	コンピュータ・デジタルデザイン							
専門科目	建築基礎	設計基礎(1)		◎		○	○	○	○		◎		○	○
		設計基礎(2)		◎		○	○	○	○	◎	◎		○	○
		設計基礎(3)		◎		○	○	○	○	◎	◎		○	○
		設計(1)		◎		○	○	○	○	○	◎		○	○
		設計(2)		◎		○	○	○	○	○	◎		○	○
		設計(3)		◎		○	○	○	○	○	◎		◎	○
		設計(4)		◎		○	○	○	○	○	◎		◎	○
		建築計画(1)		◎		◎					○			○
		建築材料(1)		◎			◎				○			○
		建築構法(1)		◎			◎				○			○
		建築構造力学基礎(1)		◎				◎			○			○
		建築構造力学基礎(2)		◎				◎			○			○
		建築構造力学基礎(3)		◎				◎			○			○
		建築構造力学基礎(4)		◎				◎			○			○
		建築環境工学(1)		◎					◎		○			○
		建築設備学基礎(1)		◎					◎		○			○
		建築設備学基礎(2)		◎					◎		○			○
	建築計画・設計	建築計画(2)		◎		◎					○			○
		西洋建築史		◎		◎				○	○			○
		日本建築史		◎		◎				○	○			○
		建築安全計画	○			◎	○	○	○		○			○
		建築意匠論	○			◎					○			○
		設計(5)	○			◎				○	◎		○	○
		設計(6)	○			◎				○	◎		○	○
		設計スタジオ(1)	○			◎				○	◎		○	○
		設計スタジオ(2)	○			◎				○	◎		○	○
		設計スタジオ(3)	○			◎				○	◎		○	○
		設計スタジオ(4)	○			◎				○	◎		○	○
	空間デザイン演習				◎					○	○		○	
	建築工学	建築生産				○	◎	○	○					
		建築施工法				○	◎	○	○					
		建築材料(2)		◎		○	◎	○	○					○
		建築構法(2)		◎			◎							○
		木質構造					◎	◎						
		建築構造力学(1)					○	◎						
		建築構造力学(2)					○	◎						
		建築構造力学(3)					○	◎						
		建築構造力学(4)					○	◎						
		建築構造力学(5)					○	◎						
		建築構造力学(6)					○	◎						
		鉄筋コンクリート構造					○	◎						
		鉄骨構造					○	◎					◎	
		建築構造計画				○	○	◎						
		地盤と基礎					○	◎						
		建築構造設計				○	○	◎			○			
		建築環境工学(2)		◎		○			◎					○
		建築環境工学(3)				○			◎					
建築設備学					○			◎						
建築設備学応用							◎					○		
建築音響学				○			◎							
卒業研究 関連科目	事例研究	○			◎	◎	◎	◎				○	○	
	卒業研究(1)	◎			◎	◎	◎	◎		○		◎	◎	
	卒業研究(2)	◎			◎	◎	◎	◎		○		◎	◎	

履修モデル

専門領域の科目一覧

区分	科目群	1年				2年				3年				4年		
		前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
学部基礎科目	数学系	微分積分学(1a)	微分積分学(1b)	微分積分学(2a)	微分積分学(2b)	微分方程式論										
	線形代数	線形代数(1a)	線形代数(1b)	線形代数(2a)	線形代数(2b)	ベクトル解析学	数値統計学	フーリエ解析学								
	物理学			物理学及び演習(1)	物理学及び演習(2)	物理学(3)	物理学(4)									
	化学	物理学実験(a)	物理学実験(b)					電磁気学基礎								
情報系								数値解析								
総合系	SD PBL(1)						SD PBL(2)			技術者倫理			SD PBL(3)			
学部共通			専門教養科目 都市のインフラストラクチャー				都市計画	空間情報科学	都市交通計画				都市・地域分析			
学科共通										建築実験						
建築基礎		設計基礎(1)	設計基礎(2)	設計基礎(3)	設計(1)	設計(2)	設計(3)	設計(4)								
建築計画・設計							西洋建築史	日本建築史	建築計画(2)	設計(5)	設計(6)	設計スタジオ(1)	設計スタジオ(2)	設計スタジオ(3)	設計スタジオ(4)	
建築工学					建築構造力学(1)	建築構造力学(2)	建築構造力学(3)	建築構造力学(4)	建築構造力学(5)	建築構造力学(6)						
卒業研究関連科目														事例研究	卒業研究(1)	卒業研究(2)

凡例
 必修科目
 選択必修科目
 選択科目
 選択科目
 選択必修科目
 (学部基礎科目) (配当年なし) Δ1,Δ2,Δ3,Δ4

履修モデル：総合 公務員・都市開発・不動産・積算・施設管理

	1年				2年				3年				4年		
	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
総合系・学部共通・学科共通・建築基礎	SD PBL(1)	設計基礎(1)	設計基礎(2)	設計基礎(3)	設計(1)	設計(2)	設計(3)	設計(4)	技術者倫理	建築CAD演習(1)	建築CAD演習(2)	都市デザイン	ランドスケープデザイン	SD PBL(3)	
建築計画・設計					建築計画(1)	建築構法(1)	建築環境工学(1)	建築材料(1)		設計(5)	設計(6)	設計スタジオ(1)	設計スタジオ(2)		
建築工学	建築構造力学基礎(1)	建築構造力学基礎(2)	建築構造力学基礎(3)	建築構造力学基礎(4)	建築構法(1)	建築環境工学(1)	建築材料(1)		建築製図演習	空間デザイン演習	建築と都市	建築安全計画			
卒業研究												事例研究		卒業研究(1)	卒業研究(2)

凡例
 必修科目
 選択必修科目
 Δ1, Δ2, Δ3
 選択必修科目
 Δ4

履修モデル：設計 意匠設計・住宅設計・インテリア設計

	1年				2年				3年				4年		
	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
総合系・学部共通・学科共通・建築基礎	SD PBL(1)	設計基礎(1)	設計基礎(2)	設計基礎(3)	設計(1)	設計(2)	設計(3)	設計(4)	技術者倫理	建築CAD演習(1)	建築CAD演習(2)	都市デザイン	ランドスケープデザイン	SD PBL(3)	
建築計画・設計					建築計画(1)	建築構法(1)	建築環境工学(1)	建築材料(1)		設計(5)	設計(6)	設計スタジオ(1)	設計スタジオ(2)	設計スタジオ(3)	設計スタジオ(4)
建築工学	建築構造力学基礎(1)	建築構造力学基礎(2)	建築構造力学基礎(3)	建築構造力学基礎(4)	建築構法(1)	建築環境工学(1)	建築材料(1)		建築製図演習	空間デザイン演習	建築と都市	建築意匠論			
卒業研究												事例研究		卒業研究(1)	卒業研究(2)

凡例
 必修科目
 選択必修科目
 Δ1, Δ2, Δ3
 選択必修科目
 Δ4

履修モデル：環境 設備設計・施工管理（設備）

	1年				2年				3年				4年		
	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
総合系・学部共通・学科共通・建築基礎	SD PBL(1)					SD PBL(2)			技術者倫理				SD PBL(3)		
		設計基礎(1)	設計基礎(2)	設計基礎(3)	設計(1)	設計(2)	設計(3)	設計(4)	建築CAD演習(1)	建築CAD演習(2)	都市デザイン	ランドスケープデザイン			
	建築造力学基礎(1)	建築造力学基礎(2)	建築造力学基礎(3)	建築造力学基礎(4)	建築計画(1)	建築構法(1)	建築環境工学(1)	建築材料(1)	建築実験						
					建築設備学基礎(1)	建築設備学基礎(2)			or	建築製図演習					
建築計画						選択必修△1 西洋建築史	選択必修△1 日本建築史	選択必修△1 建築計画(2)		選択必修△1 建築と都市		選択必修△1 建築安全計画			
建築工学					建築造力学(1)	建築造力学(2)	鉄筋コンクリート構造 or 選択必修△2 建築構法(2)	建築環境工学(2)	建築材料(2)	建築生産	建築施工法				
								建築環境工学(3)	建築音響学			建築設備学応用			
卒業研究												事例研究	卒業研究(1)	卒業研究(2)	

凡例
 必修科目
 選択必修科目
 選択必修科目
 △1, △2, △3 △4

履修モデル：構造 構造設計・施工管理・技術開発

	1年				2年				3年				4年		
	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
総合系・学部共通・学科共通・建築基礎	SD PBL(1)					SD PBL(2)			技術者倫理				SD PBL(3)		
		設計基礎(1)	設計基礎(2)	設計基礎(3)	設計(1)	設計(2)	設計(3)	設計(4)	建築CAD演習(1)	建築CAD演習(2)	都市デザイン	ランドスケープデザイン			
	建築造力学基礎(1)	建築造力学基礎(2)	建築造力学基礎(3)	建築造力学基礎(4)	建築計画(1)	建築構法(1)	建築環境工学(1)	建築材料(1)	建築実験						
					建築設備学基礎(1)	建築設備学基礎(2)			or	建築製図演習					
建築計画						選択必修△1 西洋建築史	選択必修△1 日本建築史	選択必修△1 建築計画(2)		選択必修△1 建築と都市		選択必修△1 建築安全計画			
建築工学					建築造力学(1)	建築造力学(2)	建築造力学(3)	建築造力学(4)	建築造力学(5)	建築造力学(6)					
							選択必修△2 木質構造	選択必修△2 地盤と基礎	選択必修△2 鉄骨構造	選択必修△2 建築生産	選択必修△2 建築施工法				
							選択必修△2 鉄筋コンクリート構造	選択必修△2 建築構造計画	選択必修△2 建築環境工学(2)			選択必修△2 建築構造設計			
卒業研究												事例研究	卒業研究(1)	卒業研究(2)	

凡例
 必修科目
 選択必修科目
 選択必修科目
 △1, △2, △3 △4

履修モデル：生産 技術開発・施工管理・積算・施設管理

	1年				2年				3年				4年		
	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
総合系・学部共通・学科共通・建築基礎	SD PBL(1)					SD PBL(2)				技術者倫理				SD PBL(3)	
		設計基礎(1)	設計基礎(2)	設計基礎(3)	設計(1)	設計(2)	設計(3)	設計(4)		建築CAD演習(1)	建築CAD演習(2)	都市デザイン	ランドスケープデザイン		
	建築構造力学基礎(1)	建築構造力学基礎(2)	建築構造力学基礎(3)	建築構造力学基礎(4)	建築計画(1)	建築構法(1)	建築環境工学(1)	建築材料(1)		建築実験	or		建築製図演習		
					建築設備学基礎(1)	建築設備学基礎(2)									
建築計画・設計					選択必修△1 西洋建築史	選択必修△1 日本建築史	選択必修△1 建築計画(2)			選択必修△1 建築と都市	選択必修△1 建築安全計画				
建築工学					建築構造力学(1)	建築構造力学(2)	選択必修△2 鉄筋コンクリート構造	選択必修△2 建築構法(2)	選択必修△2 木質構造	選択必修△2 鉄骨構造	地盤と基礎	選択必修△2 建築構造設計			
							選択必修△2 建築環境工学(2)			建築材料(2)	選択必修△3 建築生産	選択必修△3 建築施工法			
卒業研究												事例研究	卒業研究(1)	卒業研究(2)	

凡例

必修科目	選択必修科目	選択必修科目
	△1, △2, △3	△4

履修系統図

	1年				2年				3年				4年		
	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
数学系	微分積分学(1a)	微分積分学(1b)	微分積分学(2a)	微分積分学(2b)	微分方程式論										
自然科学系	線形代数学(1a)	線形代数学(1b)	線形代数学(2a)	線形代数学(2b)	ベクトル解析学	数理統計学	フーリエ解析学								
情報系	物理学実験(a)	物理学実験(b)	物理学及び演習(1)	物理学及び演習(2)	物理学(3)	物理学(4)									
学部共通		化学(1)		化学(2)	生物学	地学									
総合系	情報リテラシー演習(a)	情報リテラシー演習(b)	プログラミング基礎(a)	プログラミング基礎(b)			数値解析								
建築共通		情報処理入門													
実験・実習			専門教養科目 都市のインフラストラクチャー				都市計画		都市交通計画			都市・地域分析			
建築設計	未来を拓くイノベーション				インターシップ(1)	インターシップ(2)						海外体験実習(1)	海外体験実習(2)		
建築計画	SD PBL(1)				SD PBL(2)				技術者倫理			SD PBL(3)			
建築構造									建築CAD演習(1)	建築CAD演習(2)					
建築生産・材料									建築実験	建築製図演習					
建築環境設備															
卒業研究関連科目															
卒業研究															

凡例
 必修科目
 選択必修科目
 選択科目
 選択科目
 選択必修科目
 (学部基盤科目) (配当学年なし) Δ1,Δ2,Δ3,Δ4

資格

一級建築士、二級建築士、木造建築士

【資格内容】

一級建築士：国土交通大臣の免許を受け、一級建築士の名称を用いて、設計、工事監理等の業務を行う者

二級建築士：都道府県知事の免許を受け、二級建築士の名称を用いて、設計、工事監理等の業務を行う者

木造建築士：都道府県知事の免許を受け、木造建築士の名称を用いて、木造の建築物に関し、設計、工事監理等の業務を行う者

なお、建築士の業務範囲は建築士法第3条、第3条の2、第3条の3により定められている。

【受験資格】

■一級建築士の受験資格：本学建築学科卒業（「学歴要件」）後、すぐに、一級建築士試験を受験することができる。「実務経験」については、卒業から免許登録までに所定の年数以上必要となる。一級建築士試験に合格の上「実務経験」が所定の年数以上あれば一級建築士免許の登録が可能となる。

■二級建築士・木造建築士の受験資格：本学建築学科卒業（「学歴要件」）と同時に受験資格が得られる。

○学歴要件：「国土交通大臣の指定する建築に関する科目（以下「指定科目」という。）を修めて卒業」とあり、本学建築学科の場合、卒業と同時に全員が「学歴要件」を満たす。

○実務経験要件：「建築に関する実務として国土交通省令で定めるものである設計・工事監理に必要な知識・能力を得られる実務」である。なお、「建築実務の経験」として認められるものは下記の通りである。

- 1 建築物の設計（建築士法第21条に規定する設計をいう。）に関する実務
- 2 建築物の工事監理に関する実務
- 3 建築工事の指導監督に関する実務
- 4 建築士事務所の業務として行う建築物に関する調査又は評価に関する実務
- 5 次に掲げる工事の施工の技術上の管理に関する実務
 - イ 建築一式工事（建設業法別表第一に掲げる建築一式工事をいう。）
 - ロ 大工工事（建設業法別表第一に掲げる大工工事をいう。）
 - ハ 建築設備（建築基準法第2条第3号に規定する建築設備をいう。）の設置工事
- 6 建築基準法第18条の3第1項に規定する確認審査等に関する実務
- 7 前各号の実務に準ずるものとして国土交通大臣が定める実務

（大学院の課程（建築に関するものに限る。）において、建築物の設計又は工事監理に係る実践的な能力を培うことを目的として建築士事務所等で行う実務実習（インターンシップ）及びインターンシップに関連して必要となる科目の単位を所定の単位数（30単位以上又は15単位以上）修得した場合に実務の経験とみなされる2年又は1年の実務も含まれます。）

【試験科目】

■一級建築士試験：

①学科の試験

学科Ⅰ [計画] 建築計画：建築積算等

学科Ⅱ [環境・設備]：環境工学，建築設備（設備機器の概要を含む。）等

学科Ⅲ [法規]：建築法規等

学科Ⅳ [構造]：構造力学，建築一般構造，建築材料等

学科Ⅴ [施工]：建築施工等

②設計製図の試験

あらかじめ公表された設計課題についての設計製図

■二級建築士・木造建築士：

①学科の試験

学科Ⅰ [建築計画]

学科Ⅱ [建築法規]

学科Ⅲ [建築構造]

学科Ⅳ [建築施工]

②設計製図の試験

あらかじめ公表された設計課題についての設計製図

【問合せ先】

公益財団法人建築技術教育普及センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-6 紀尾井町パークビル

TEL 03-6261-3310(代表)

http://www.jaeic.or.jp/

【東京都市大学 建築都市デザイン学部 建築学科における指定科目】

本学建築都市デザイン学部建築学科は、建築士指定科目が認められた課程である。指定科目の分類に対し該当する科目は下表の通りである。

学校・課程名 東京都市大学 建築都市デザイン学部 建築学科

指定科目の分類		指定科目に該当する科目				
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	備考
①建築設計製図 (3単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	設計基礎(2)	1	必修	1	
		設計基礎(3)	1	必修	1	
		設計(1)	2	必修	1.5	
		設計(2)	2	必修	1.5	
		設計(3)	2	必修	1.5	
		設計(4)	2	必修	1.5	
		設計(5)	3	選択	2	
		設計(6)	3	選択	2	
		建築製図演習	3	選択	2	
		設計スタジオ(1)	3	選択	2	
		設計スタジオ(2)	3	選択	2	
		設計スタジオ(3)	4	選択	2	
		設計スタジオ(4)	4	選択	2	
②～④ 建築計画, 建築環境工学 又は建築設備 (2単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	建築計画(1)	2	必修	2	
		建築計画(2)	2	選択	2	
		西洋建築史	2	選択	2	
		日本建築史	2	選択	2	
		建築安全計画	3	選択	1	
		建築と都市	3	選択	2	
		建築意匠論	3	選択	2	
	③建築環境工学 (2単位以上)	建築環境工学(1)	2	必修	2	
		建築環境工学(2)	2	選択	2	
		建築環境工学(3)	3	選択	2	
		建築音響学	3	選択	1	
	④建築設備 (2単位以上)	建築設備学基礎(1)	2	必修	1	
		建築設備学基礎(2)	2	必修	1	
		建築設備学	3	選択	2	
		建築設備学応用	3	選択	2	

指定科目の分類		指定科目に該当する科目				
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	備考
⑤～⑦ 構造力学, 建築一般構造又は 建築材料 (3単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	建築構造力学基礎(1)	1	必修	1	
		建築構造力学基礎(2)	1	必修	1	
		建築構造力学基礎(3)	1	必修	1	
		建築構造力学基礎(4)	1	必修	1	
		建築構造力学(1)	2	選択	1	
		建築構造力学(2)	2	選択	1	
		建築構造力学(3)	2	選択	1	
		建築構造力学(4)	2	選択	1	
		建築構造力学(5)	3	選択	1	
		建築構造力学(6)	3	選択	1	
		地盤と基礎	3	選択	2	
	⑥建築一般構造 (3単位以上)	建築構法(1)	2	必修	2	
		建築構法(2)	2	選択	1	
		木質構造	2	選択	1	
		鉄筋コンクリート構造	2	選択	2	
		建築構造計画	2	選択	2	
		鉄骨構造	3	選択	2	
		建築構造設計	3	選択	2	
	⑦建築材料 (2単位以上)	建築材料(1)	2	必修	2	
		建築材料(2)	3	選択	2	
建築実験		3	選択	2		
⑧建築生産 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	建築生産	3	選択	2	
		建築施工法	3	選択	2	
⑨建築法規 (1単位以上)	⑨建築法規 (1単位以上)	技術者倫理	3	必修	2	
⑩複合関連科目	⑩複合関連科目	設計基礎(1)	1	必修	1	
		建築CAD演習(1)	3	選択	1	
		建築CAD演習(2)	3	選択	1	
		空間デザイン演習	3	選択	1.5	
		都市デザイン	3	選択	2	
		ランドスケープデザイン	3	選択	1	
一級建築士試験の受験に必要な単位数は、 上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計30単位を含め、合計40単位以上 一級建築士の免許登録に必要な建築実務の経験年数は、 上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計30単位を含め、合計60単位以上修得 : 2年 同 合計50単位以上60単位未満修得 : 3年 同 合計40単位以上50単位未満修得 : 4年 二級・木造建築士試験の受験に必要な単位数は、上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計10単位を含め、合計20単位以上 二級・木造建築士の免許登録に必要な建築実務の経験年数は、 上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計10単位を含め、合計40単位以上 : 0年 同 合計30単位以上40単位未満修得 : 1年 同 合計20単位以上30単位未満修得 : 2年						

※本学建築学科では、卒業要件を満たす(卒業する)ことによって、「上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計30単位を含め、合計60単位以上」を満たすようになっており、卒業後すぐに一級建築士試験の受験ができる。また免許登録に必要な実務経験の合計は「2年」となる。